平成 27 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	管 27K02	氏　名	三浦　公平
研究主題 ―副主題―	小学校教育における児童の体力・身体能力を高めるための工夫に関する一考察		
所属校	品川区立中延小学校	派遣先	帝京大学教職大学院

項　目	内　容
Ⅰ　研究の目的	生涯にわたって運動やスポーツに親しんでいくためには、乳幼児期から青年期に至るまでの間に、基本的生活習慣を身に付け、健康で体力を保持増進していくための基本的な能力や態度を養い、日常生活の身体活動量を増加させて基礎体力を十分に高めていくことが重要な課題である。そのために、学校における体育の授業改善、運動を行うための環境整備を一層推進していくことが求められる。 そこで、各学校で取り組まれている体力向上の取組に焦点を当て、どのような取組がなされ、どのような成果や課題があるかを調査することによって、より良い子供の基礎体力向上に向けた取組の在り方について研究をしていく。
Ⅱ　研究の方法	１　対象 抽出条件を基に都内８校の小学校を抽出 ２　調査方法 (1)校長や研究主任に対する半構造化面接法を用いたインタビューを行った。 (2)非参与観察法を用いて、体育的活動を観察した。
Ⅲ　研究の結果	１　体育授業改善における効果的な取組 (1)体育講師の有効活用 ○　体育講師を活用したティームティーチングを行っている。 (2)研究・研修機会の確保 ○　校内研究で体育に取り組み、学校全体の体育授業の改善を図ろうとしている。 ○　体育を専門教科としている校長が授業観察をして、授業づくりについてアドバイスを行ったり、授業づくりの資料を配布したりしている。 ○　放課後の時間を使って 30 分程度の実技を含めたミニ研修会を行っている。 ２　体育的活動における効果的な取組 (1)運動内容の工夫 ○　ゲームや競争の要素を取り入れた運動遊びを、体育的活動に取り入れている。 ○　同じ動きでも、発達の段階を踏まえた遊び方の工夫をしている。 (2)取組方法の工夫 ○　体育主任が、東京都小学校体育研究会の発表を参観するなどして情報収集を行い、他の教員にも情報提供を行っている。

	○ 顕彰制度を取り入れ、記録がよかった児童を表彰したり認定したりして、児童の運動への意欲を高めている。 ○ より良い活動となるように、運動遊びごとに教員を固定し、担当教員が遊び方を工夫したり、よい動きを紹介したりするなどしている。
	○ 保護者と子供の体力について共通理解を図るために、学校便りや学校説明会、HP で体力・運動能力調査結果を報告し、学校の取組を紹介している。 (3)休み時間における効果的な取組 ○ 運動の日常化を図るために、校庭や体育館に遊びの場を常設したり、遊び用具をいつでも使用できるようにしたりして環境を整備している。 ○ 調査した多くの小学校で、子供たちが遊ぶきっかけづくりのために、教員が休み時間に子供と一緒に遊んでいることが明らかとなった。
Ⅳ 考察	1 校長や研究・体育主任のリーダーシップ 中心となる人物の強いリーダーシップが必要である。ただ強いリーダーシップがあればよいということではなく、他の教職員に力（知識や情報、意欲）を与え、学校が一体となって取り組むためのリーダーシップが必要である。 2 各教員の積極的な関わりと創意工夫 取組を進めていく上では、体育主任だけでなく、他の教職員の協力・創意工夫が必要となってくる。それぞれの教員の創意工夫が、取組を成功させる実施段階でのキーポイントとなる。 3 研究・研修機会 校内研究やミニ研修会をきっかけとして、授業づくりのポイントや運動の行い方、運動のポイントを理解するは、授業力を向上させたり、体力向上に関する意識を高めたりするには効果的である。 4 運動内容の工夫 体育的活動で行う運動内容は、以下の要素が含まれていることが望ましい。 ・子供たちが楽しく取り組めるもの。 ・発達の段階や体力の実態にあったもの。 ・児童同士が関わることができるもの。 ・休み時間でも取り組めるもの。 ・短時間でできるもの。 ・限られた空間で取り組めるもの。 ・簡単に準備できるもの。 5 環境づくり 体育的活動は、運動や遊びの日常化や体力向上の効果を考えると、週１回以上実施することが必要と考える。また、子供たちが休み時間や放課後に遊びに取り組めるような環境を整備することが必要である。